



天目

慚愧の念 『しくじり住職』

慚愧(ざんき)という言葉を知っていますか？頻繁に使う言葉ではないと思いますが、政治家が「慚愧の念に堪えません」と謝罪の場で使っている光景はよく見ます。この〈慚愧〉は自分の過ちを恥ずかしく思い、深く反省することを意味する仏教用語です。ちなみに、似た意味の懺悔(ざんげ)とは、その慚愧の心を神仏の前で告白して反省することをさします。

あんなことしなければよかった、といくら後悔しても先へは進めません。過去の過ちは消せないのですから、慚愧の念をもって今後の自分の人生に活かしていくことが大切です。

〈慚〉とは自分自身で反省し、今後同じ過ちは犯さないとと思う心。そして〈愧〉とはその自分と同じ過ちを人にも犯させないと思う心です。つまり〈愧〉とは他者への思いやり、慈悲の心でもあります。

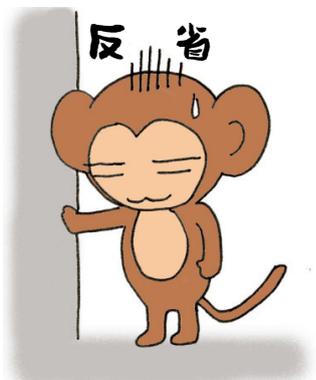
さて、最近テレビの『しくじり先生』という番組をよく見ます。芸能人がしくじりの実体験を包み隠さず暴露し、最後に教訓を示すというものです。おもしろおかしく編集してはありますが、最後には「自分らしくじったけど、みんなは同じ轍を踏むなよ」と生きるヒントをくれる、まさにこの〈慚愧〉をテーマにした番組ではないかと思えます。

ではここからは恥ずかしながら『しくじり住職』。先日、久しぶりに会った友人達の中の一人を、冗談の通じる相手だからという甘えもあってちよつとからかったところ、聖域に踏み込んでしまったらしく、週末の人通りも多い東京の街中で、いきなり大泣きされてしまいました。周囲の視線も痛いほどこちらに注がれる中、まさに「慚愧の念に堪えない」思いで、私はただただ何度も謝っていました。「だから二流和尚なんだ」と叩かれながら・・・。ところが話はそこで終わりません。後で冷静になって思えば、慚・愧の「愧」がおろそかだったようです。泣かせた原因を他の友人達に隠したことから事態は悪化。自分の思いは自分の言葉で伝えなければ伝わりません。それを伝えなかったことで隠された友人達は何かあったのかひたすら妄想します。ありもしない事実を悪い方へ悪い方へ誇大妄想して怒り出す結果に。

禅語に〈妄想する莫れ〉とあります。誰から何を聞かれても、一生「妄想する莫れ」と答え続けた中国唐時代の名僧、無業和尚もいるくらいで、臨済宗では自分で自分の悩みの種をまくからと妄想することをつよく戒めています。それでも人間は妄想するもの。人間だからこそ妄想するのであって、それを断ち切るのは容易ではないことです。そして、妄想させる原因を作ったのは他の誰でもなくこの私。

以前、天目の第10号にも書きました因果応報。全ての結果には必ず原因があり、良い原因は良い結果を、悪い原因は悪い結果をもたらします。今回のことは全て私の悪因が引き起こした悪果。次の日には笑い話になっていたけれど、以後、本尊様の前で懺悔門(懺悔のお経)を読み続けています。

悪行(しくじり)は誰でも犯します。大事なはその後。後悔だけで終わらず、善行(慚愧)に変えていくことがとても大切です。↑無論そのことはこれまでも仏の教えとして頭では理解していたのですが、このたび自分の体験からあらためて実感として得た次第です(反省)



二流ではなく三流和尚 青柳 真元

施餓鬼会と遠諱法要

平成二十九年二月六日に天目山で自害した武田信満公の没後六百年を迎えます。正当での法要は寒さも厳しく、雪の恐れもあるので、本年十月二日の山門大施餓鬼会に合わせての遠諱法要を執り行います。

武田家と最も縁の深いお寺と言えば塩山の恵林寺。信玄公の菩提寺でもあるその恵林寺の住職「古川周賢老師」を拝請して導師をお願いしております。また、武田信玄の家臣末裔で結成する武田家旧温会の皆様や甲州市にもご協力いただき、この記念すべき遠諱大法要を厳修する予定です。是非ご参加ください。



監視カメラを設置

庫裏の二ヶ所と伝灯庵に監視カメラを設置しました。深夜でもわずかな明かりで顔が判別可能だったり、スマートフォンでの確認や遠隔操作もできるカメラの高性能カメラです。多くの文化財を所蔵する栖雲寺ですので、犯罪の抑止力にもつながるかと思われ断しました。県と市からも補助を得ての事業です。

ぶつちやけ寺に出演

当山所蔵の信玄公鉄製軍配が、テレビ朝日の人気番組「ぶつちやけ寺」に取り上げられ、私も出演して二月に放送されました。近年の武田勝頼人気もあって、放送後はなかなかの反響です。



普応国師坐像 東京国立博物館へ

当山所蔵の重要文化財、普応国師坐像が、東京上野の国立博物館へ御出向されます。

臨済禅師一一五〇年遠諱、白隠禅師二五〇年遠諱の特別展です。全国から名宝を一堂に集め、禅の歴史、文化、美術が間近でご覧いただけますので、どうぞこの機会に足をお運びください。

平成二十八年十月十八日～十一月二十七日

今後の主な予定

七月二十七日 開山忌（十時 法要）

十月二日 山門大施餓鬼・武田信満六百年遠諱法要

十一月十二日、十三日

宝物風入れ展・囲炉裏カフェ

あとがき

平成二十一年十月発行の天目第二号に、「私事です。が長男が誕生しました」と書かせていただきました。その長男も、早いものでこの四月から鎌倉市内の小学校に通っております。また私自身も、建長寺での財務部長の役職が二期目に突入したこともあり、相変わらず栖雲寺を多く留守にしてご迷惑をお掛けしておりますが、お寺の諸行事には今後もできるだけ子供供達も連れて帰り、参加させるつもりですので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。



※坐禅会、法話、写経会、境内案内等、可能な限りお受けします。電話でお気軽にお問い合わせください。